



## 「血まめ」は、どう手当てをすればいいの

軽いもの**の場合には、特に治りょうの必要はない**

「血まめ」は、軽いもの**の場合には、特に治りょうの必要はなく、「血まめ」の中の血液**は、自然に**吸収**されて消えてしまうため、そのままにしておいてもいいのです。

しかし、ていどによっては、化のう(うむ)しないように、**抗生物質のぬり薬**をつけて、ガーゼなどで**保護**しておかなければならない**場合**もありますので、**注意**しましょう。

また、血まめのできる**原因**が思いあたらないのに、血まめがくり返してできるようなら、ほかの**病気**の場合も**考え**られますので、**病院**で**診察**や**検査**をしてもらう**必要**があります。

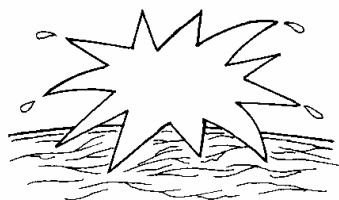
「血まめ」は**皮ふの表面**近くにできた**小さな出血**

「血まめ」は、**皮ふの表面**近くに見られる、**赤むらさき色**の**小さい豆**くらいの**大きさ**の**点状**の**出血**です。

**手足の指**、**手のひら**、**足の裏**などが、何かでは**さま**れるなど**強く**圧ぱくされたときに、**皮ふ**の中に、**小さな出血**が起こるために**でき**ます。

血まめには、**指**をは**さん**だり、**鉄棒**や**野球**の**バット**や**テニス**の**ラケット**などを、**強く**にぎって**運動**をしたときの**手**の**血まめ**、**くつずれ**の**足**の**血まめ**などがあります。

(監修・保志 宏)

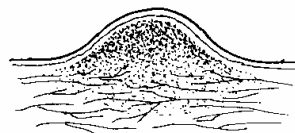


皮ふを強くはさまれる

### 血まめのでき方



血管が破れて血が出る



血まめができる

